

ANAホールディングス株式会社 説明会

2027年3月期 第2四半期決算

2026年10月29日

代表取締役社長

芝田 浩二



1. 2026年度 第2四半期決算（概要）

上期決算概要	P. 4
営業利益の計画差	P. 5
通期業績予想の修正	P. 6
下期事業計画のポイント	P. 7
国内旅客	
構造改革の実現と中長期的に目指す姿	P. 8
リージョナルプラスウイング社の完全子会社化	P. 9
価値創造ロードマップ2030の実現に向けて	P. 10
ビジネスハイライト	P. 11

2. 2026年度 第2四半期決算（詳細）

連結決算概要	P. 13-17
航空事業	
収入・費用	P. 18
営業利益 増減要因（前年差）	P. 19
事業別のポイント（上期実績）	P. 20
ANA国際旅客	P. 21-22
ANA国内旅客	P. 23-24
国際貨物	P. 25-29
Peach Aviation	P. 30-31
ANA・NCA国際線 方面別（構成比）	P. 32-33
燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 34
航空機数	P. 35
航空事業以外のセグメント	P. 36

3. 2026年度 通期業績予想修正（詳細）

連結業績予想（修正）	P. 38
セグメント別（修正）	P. 39
航空事業	
売上高・営業費用（修正）	P. 40
営業利益 増減要因	P. 41-42
計画前提	P. 43-46

1. 2026年度 第2四半期決算・通期業績予想修正（概要）

2. 2026年度 第2四半期決算（詳細）

3. 2026年度 通期業績予想修正（詳細）



国際線を中心にトップラインが好調に推移し、当初計画を大幅に上回る利益水準を確保

連結売上高

13,987億円

前年比 +17.5%

- 国際旅客・国際貨物で、需要と単価が好調に推移し、**前年から大幅増収**
- **上期として過去最高を更新**

連結営業利益

881億円

前年比 △9.7%

- 中東情勢の影響により、燃油費は前年から大幅に増加
- 利益水準は**計画を大幅に上回って推移**（詳細は次ページ参照）

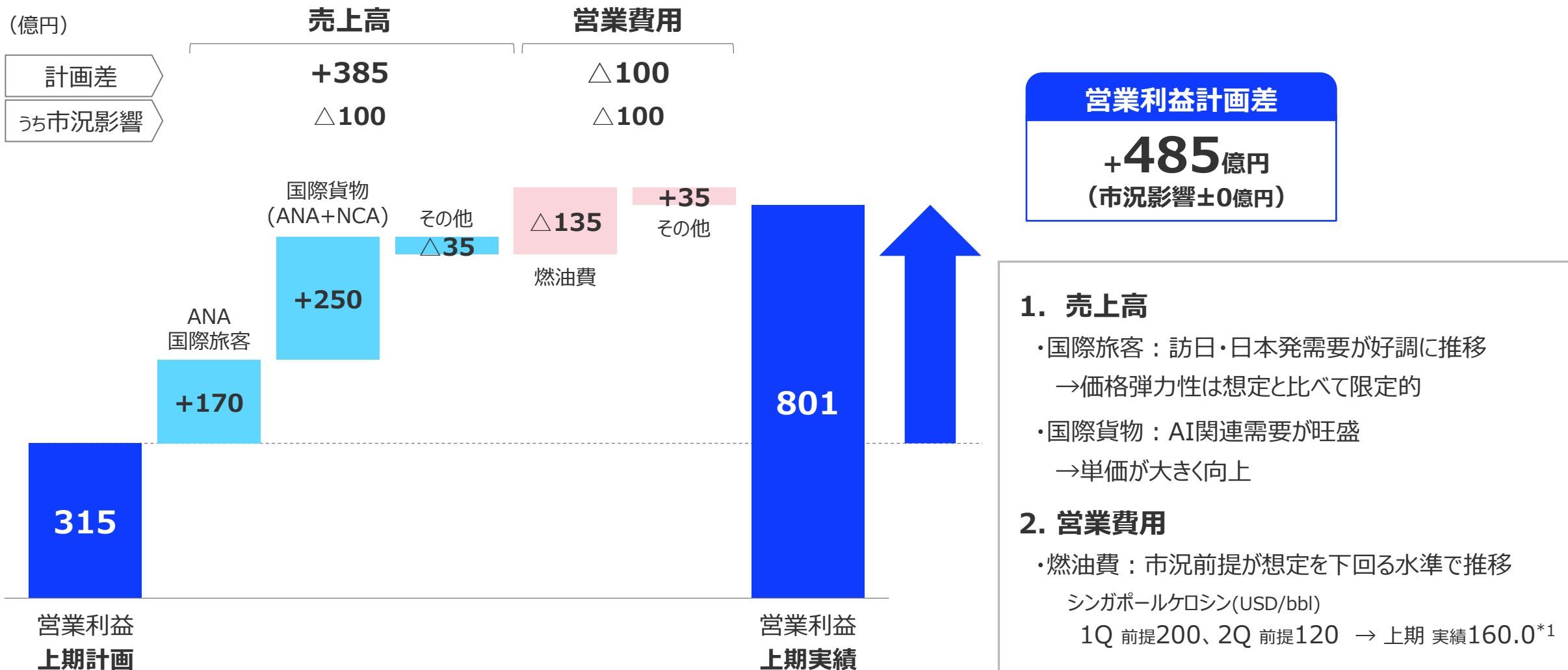
親会社株主に帰属する
中間純利益

670億円

前年比 △11.8%

- 1株あたり配当金 中間 30円 （期末 30円予想）

国際旅客・貨物の増収に加え、燃油市況が想定を下回り、上期の営業利益は計画を485億円上回る



*1 費用精算は主に前月の平均市況を参照
(上期は3～8月の市況)

旺盛な需要の取り込みと機動的な価格戦略で燃油高を吸収、営業利益1,500億円を堅持

連結売上高

当初計画		修正計画
27,700億円	→	28,700億円
当初計画差 +1,000億円		

連結営業利益

当初計画		修正計画
1,500億円	→	1,500億円

親会社株主に帰属する 当期純利益

当初計画		修正計画
960億円	→	990億円
当初計画差 +30億円		

修正のポイント

1) 国際線の強い需要を計画に反映

- 国際旅客：価格弾力性を上期より抑制
旅客数・単価の両面で収入を拡大
- 国際貨物：旺盛な需要を単価に反映

2) 市況前提の変更（下期）

		当初前提差
為替：	160 円/USD	(+5)
燃油：ドバイ	90 USD/bbl	(+15)
シンケロ	150 USD/bbl	(+60)

- 燃油費：+760億円（当初計画差：上期▲135、下期+895）
- カバー率：上期 58%、下期 66%

3) 政策保有株式売却などの上期実績を反映

当初施策を確実に実行、良好な需要を捉えトップラインをさらに拡大

	下期売上高計画 (当初計画比)	FY26戦略ポイント(4/30開示)	下期のポイント
1 ANA 国際旅客	+6%	1) 需要動向に応じた生産量拡大 2) 「羽田の質」×「成田の量」のベストミックス	1) FSC*上昇による需要の価格弾力性を見立てを引き下げ 2) 旅客数・単価ともに当初計画からの上振れを追求 <small>*燃油サーチャージ</small>
2 ANA 国内旅客	△0%	1) 新運賃体系を活用した単価向上 2) 「安定収益基盤への復元」に向けた取り組み	1) 単価は上期末で計画水準に改善、さらなる向上を図る 2) 構造改革に向けた検討・準備を加速
3 国際貨物 (ANA+NCA)	+13%	1) ANAとNCAのネットワークバランスを最適化 2) 「統合・シナジー効果200億円」の創出 (中東影響除く)	[外部環境] 旺盛な需要が継続 →AI関連需要を中心に高単価での獲得を強化
4 Peach	+2%	1) 需要波動に応じた生産量の最適化 2) 基本品質・顧客満足度の向上(中期施策)	3Qにピークを迎えるアジア訪日需要の取り込みに注力 [座席キロ 内際構成比 (国内線：国際線)] 上期実績 60：40→下期計画 55：45

シームレスな移動を支えるネットワークと持続可能な事業体制を再構築し、インフラとしての安定収益基盤を復元

構造的課題

需要減少・インフラ維持

成熟経済

地理的特性
(離島・遠隔地)

運賃の硬直・コスト急騰

高単価ビジネス
需要の減少

激しい競争
(他交通)

急激な円安

欧米の潮流

航空・鉄道の分担と協業
航空会社の統廃合・需給適合

需給
適合

協調・協業
深化

公助
有識者会議

自助・共助

運賃
改善

費用
低減

路線協調

出資規制廃止

小型機活用

燃油サーチャージ

空港業務協業

目指す姿

拡大する
海外発需要
獲得

鉄道との連携深化と
地域ネットワーク
維持

生み出した
機材・人的資本の
活用

国際線
さらなる成長

事業
効率化

安定収益基盤の復元

UR向上・UC低減、限界利益率の改善

営業利益率**10%**復元 コロナ前水準
(FY15~17)

ANAブランドとの統合も視野に、機能統合により早期に効果を創出

各社の強みを融合

ANAHD/ANA

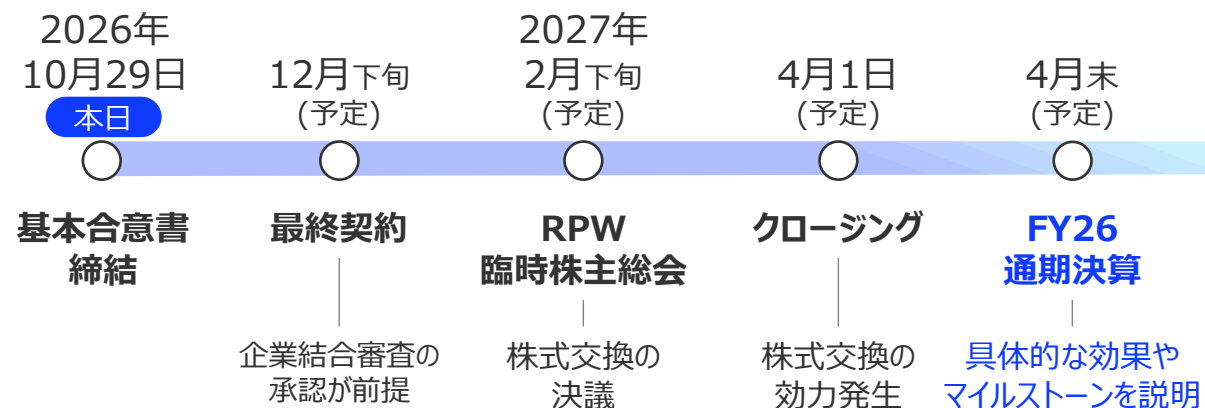
- 国内最大かつグローバルなネットワーク
- 高いブランド認知力・販売力
- 強固な財務基盤

RPW

AIRDO

ソラシドエア

- 地域に根ざしたネットワーク
- 強い地域顧客基盤
- 高い運航品質



需給適合
一体的な路線・
運航便計画
**ネットワーク
最適化**

統合・シナジー
効果

運賃改善

レベニューマネジメント
一元化

UR向上

費用低減

調達・施設の一元化
スケールメリット

UC低減

主要テーマの進捗は、マイルストーンに合わせて詳細を公表予定

		～FY26	FY27	FY28	FY29	FY30
国内 旅客	自助・共助	■ 空港での協業	■ 燃油サーチャージ導入			
	路線協調		■ ダイヤ調整開始、供給量調整に向けた検討			
	会社間協業		■ RPWのグループ化 ■ ANA=RPW 機能統合開始			
	小型機活用			■ エンブラエル機受領(E190-E2) ■ IBEXへのANA便運航委託		
CX 戦略	基盤刷新	■ 一体的な事業マネジメント*1	■ 顧客情報基盤の刷新 ■ RMシステムのアップグレード			
国際 旅客	量的拡大 質的深化		■ 日本＝欧米路線拡大(JVパートナー) ■ B787-9新仕様受領(THE Room FX)		■ 成田 延伸B滑走路供用開始 (新C滑走路整備 期限は2034年末)	
経営	ROIC管理		■ 事業別管理 ■ 新たな開示セグメント (FY27通期決算の法定開示*2)	■ 投資案件評価、資本配分高度化		■ 中長期戦略に活用 (ポートフォリオなど)

*1 旅客事業、カード・マイル、旅行事業、ライフソリューション、地域創生

*2 法定開示とは別のタイミングでの任意開示を検討中

2027年4月1日
貨物事業会社を統合し新たなブランドを立ち上げ

ANA Nippon Cargo Airlines 株式会社*1
新ブランド名 **ANA Nippon Cargo**

安全を基盤に、最高水準の「Nippon Quality」を強みとして
新たな価値とさらなる利便性を提供していきます



*1 2027年4月1日～ANA Cargo、日本貨物航空、NCA Japanの3社を1社に統合。
2027年度下期以降、新会社名に変更予定。(関係当局の許認可等により変更となる可能性あり)

Peachブランドリニューアルが
「2026年度グッドデザイン賞」を受賞



GOOD DESIGN
AWARD 2026

Peachブランドリニューアル
2026年度グッドデザイン賞受賞



1. 2026年度 第2四半期決算・通期業績予想修正（概要）

2. 2026年度 第2四半期決算（詳細）

3. 2026年度 通期業績予想修正（詳細）



(億円)	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年差	FY2025	FY2026	前年差
売上高	11,904	13,987	+ 2,083	6,416	7,260	+ 843
営業費用	10,927	13,105	+ 2,178	5,808	6,586	+ 777
営業利益	976	881	△ 94	608	673	+ 65
営業利益率 (%)	8.2	6.3	△ 1.9pt	9.5	9.3	△ 0.2pt
営業外損益	△ 24	△ 24	△ 0	△ 15	△ 42	△ 26
経常利益	951	856	△ 94	592	631	+ 39
特別損益	102	20	△ 81	102	0	△ 101
親会社株主に帰属する 中間（四半期）純利益	760	670	△ 89	531	476	△ 54

(億円)	FY2025 期末	FY2026 上期末	前年度 期末差
総資産	39,551	38,911	△ 639
自己資本	14,919	14,285	△ 634
自己資本比率 (%)	37.7	36.7	△ 1.0pt
有利子負債残高	11,717	11,984	+ 267
D/Eレシオ (倍)	0.8	0.8	+ 0.1
手元流動性資金 ^{*1}	12,569	11,417	△ 1,152
純有利子負債残高 ^{*2}	△ 852	567	+ 1,419
ネットD/Eレシオ (倍) ^{*3}	△ 0.1	0.0	+ 0.1

*1 手元流動性資金 = 現金および預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

*3 ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

財務健全性の維持・向上と資本効率の向上に向けたバランスシートマネジメントを実行中

主な変動要素(上期)

2026年度上期末 バランスシート

主な変動要素(上期)



主な財務指標

自己資本比率
36.7%
(△1.0pt)

調整後自己資本比率*1
36.8%
(△1.0pt)

ネットD/Eレシオ
0.04倍
(+0.1倍)

劣後ローンに係る
実質ネットD/Eレシオ
0.28倍
(+0.11倍*2)

*1 劣後ローン、社債型種類株式の資本性認定分を考慮

*2 2025年度末の指標を確定値に洗い替えて算出

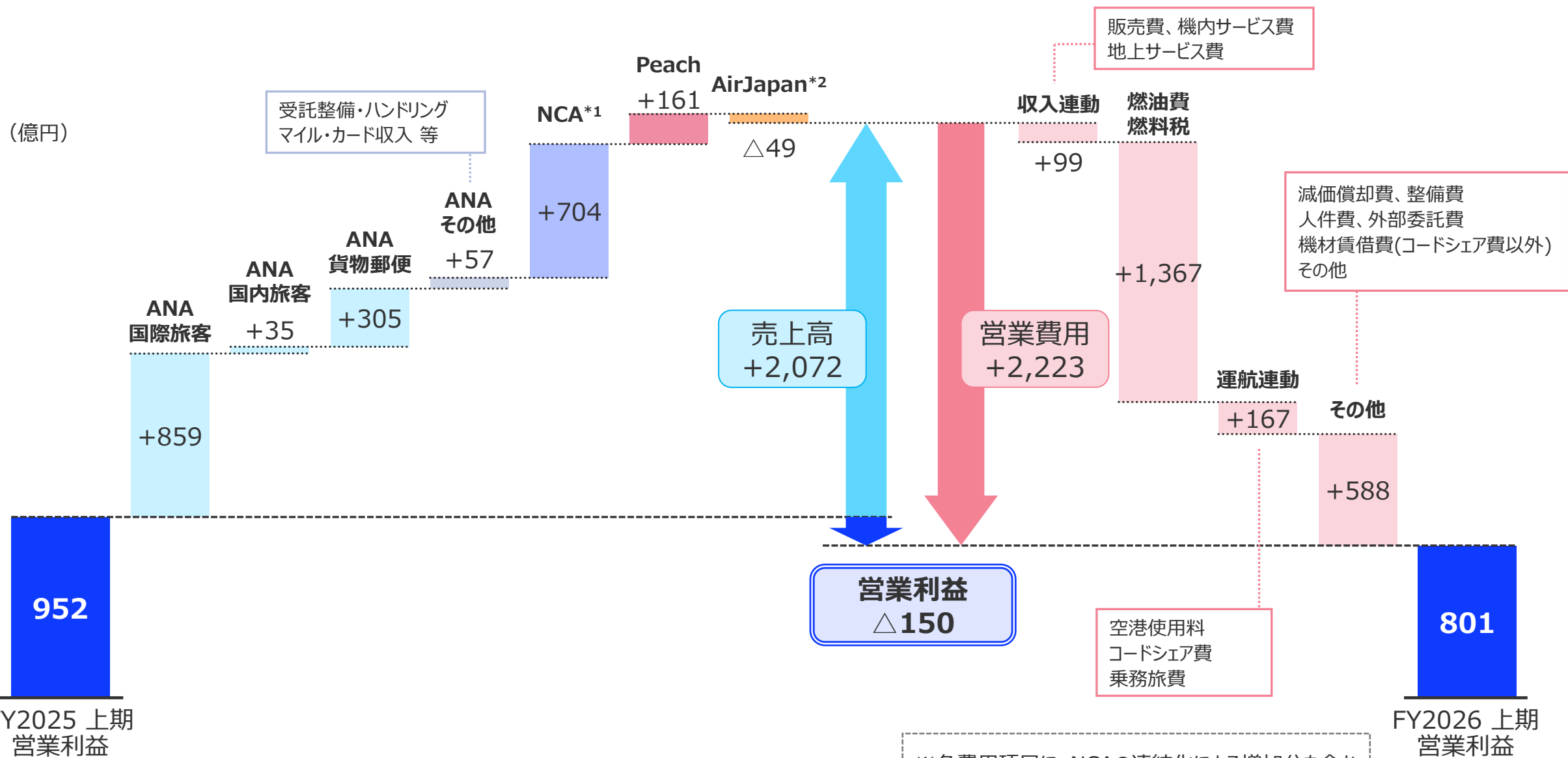
(億円)	上期		
	FY2025	FY2026	前年差
営業キャッシュフロー	1,790	1,360	△ 429
投資キャッシュフロー	△ 2,802	1,817	+ 4,619
財務キャッシュフロー	△ 737	△ 854	△ 116
現金および現金同等物の増減額	△ 1,750	2,325	+ 4,075
現金および現金同等物の期首残高	8,627	7,363	} + 2,325
現金および現金同等物の期末残高	6,891	9,689	
減価償却費	811	901	+ 89
設備投資額（固定資産のみ）	1,238	1,667	+ 429
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の譲渡性預金等を除く）	692	△ 299	△ 992
EBITDA（営業利益+減価償却費*）	1,788	1,776	△ 11
EBITDAマージン（%）	15.0	12.7	△ 2.3pt

* 休止機材に係る減価償却費を含まない

		上期			第2四半期		
(億円)		FY2025	FY2026	前年差	FY2025	FY2026	前年差
売上高	航空事業	10,819	12,892	+ 2,072	5,850	6,684	+ 833
	航空関連事業	1,738	1,898	+ 159	876	972	+ 96
	旅行事業	338	319	△ 18	184	180	△ 4
	商社事業	729	753	+ 23	382	378	△ 3
	その他	229	251	+ 21	114	128	+ 13
	調整額	△ 1,951	△ 2,128	△ 176	△ 991	△ 1,083	△ 92
	合計（連結）	11,904	13,987	+ 2,083	6,416	7,260	+ 843
営業利益	航空事業	952	801	△ 150	598	619	+ 21
	航空関連事業	39	104	+ 65	7	55	+ 47
	旅行事業	2	9	+ 6	4	7	+ 2
	商社事業	35	29	△ 6	22	18	△ 4
	その他	13	14	+ 0	8	7	△ 0
	調整額	△ 68	△ 77	△ 9	△ 33	△ 35	△ 2
	合計（連結）	976	881	△ 94	608	673	+ 65

(億円)		上期			第2四半期		
		FY2025	FY2026	前年差	FY2025	FY2026	前年差
売上高	ANA 国際旅客	4,061	4,920	+ 859	1,998	2,444	+ 445
	ANA 国内旅客	3,668	3,703	+ 35	2,049	2,067	+ 17
	ANA 貨物郵便	1,013	1,318	+ 305	518	660	+ 141
	ANA その他	937	994	+ 57	466	493	+ 27
	NCA* ¹	433	1,137	+ 704	433	558	+ 124
	Peach	656	817	+ 161	363	460	+ 96
	AirJapan* ²	49	-	△ 49	20	-	△ 20
	合計	10,819	12,892	+ 2,072	5,850	6,684	+ 833
営業費用	燃油費・燃料税	2,233	3,601	+ 1,367	1,227	1,725	+ 498
	空港使用料	599	677	+ 78	321	350	+ 29
	航空機材賃借費	819	923	+ 104	434	460	+ 26
	減価償却費	777	861	+ 83	406	434	+ 27
	整備部品・外注費	1,135	1,352	+ 216	606	736	+ 129
	人件費	1,211	1,268	+ 57	635	645	+ 10
	販売費	301	327	+ 25	149	165	+ 15
	外部委託費	1,594	1,760	+ 165	820	892	+ 72
	その他	1,195	1,318	+ 122	650	652	+ 2
	合計	9,867	12,091	+ 2,223	5,252	6,064	+ 811
営業利益	営業利益	952	801	△ 150	598	619	+ 21

*1 前年度第2四半期から連結化 *2 前年度末で運航休止



*1 NCAは前年度第2四半期から連結化

*2 AirJapanは前年度末で運航休止

※各費用項目に、NCAの連結化による増加分を含む

国際線を中心に高単価を維持し、トップラインを大幅に拡大

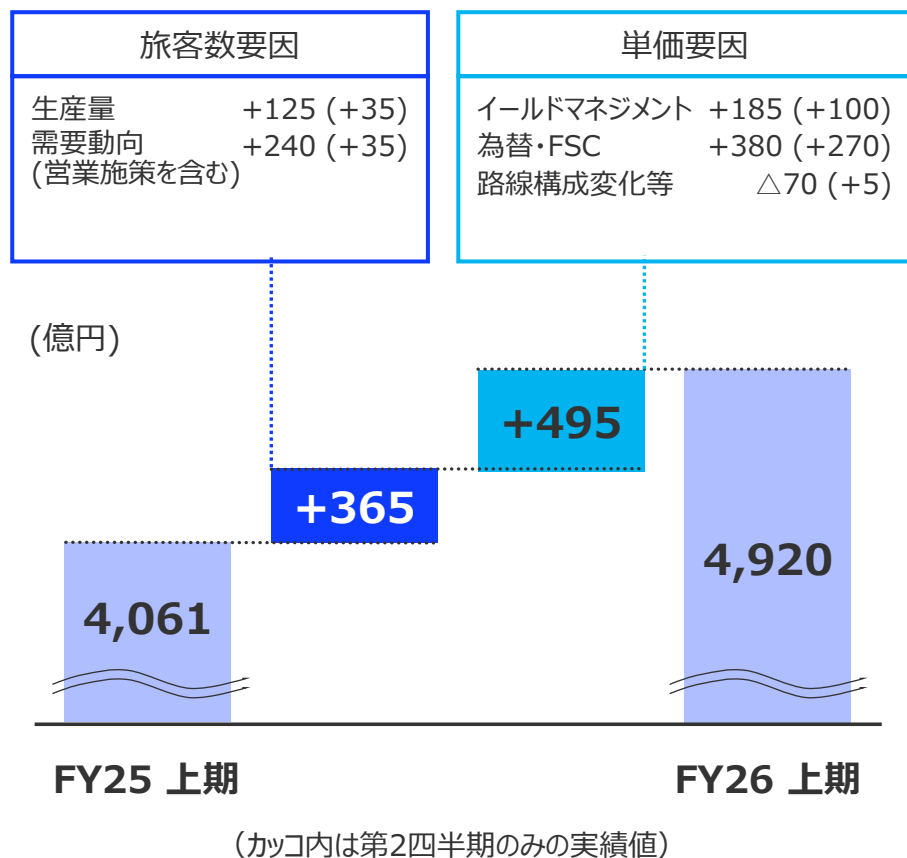
	事業別の対応	売上高 (前年比)	主な指標 (前年比)
1 ANA 国際旅客	1) 全方面で旅客キロを拡大、FSC上昇による価格弾力性は最小限に抑制 2) 直近需要へのセルアップを徹底し、実質イールドも向上	4,920億円 (+21%)	旅客キロ +7% イールド +13%
2 ANA 国内旅客	1) 生産量減少やイレギュラー影響を受けながらも、前年並みの旅客数を維持 2) 単価改善策により、2Q単価は前年・計画を上回る水準まで回復	3,703億円 (+1%)	旅客数 +0% 単価 +1% [2Q単価 +4%]
3 国際貨物 (ANA+NCA)	1) AI・半導体関連の旺盛な需要が継続、北米向けの貨物を最大限獲得 2) 高価格帯の需要を優先して取り込み、高単価水準が持続	2,175億円 (+78%) [1,087億円(+37%)]	貨物重量 +25% [+1%] 単価 +43% [+35%]
4 Peach	1) 国内線：国際線からリソースをシフトし、夏場のレジャー需要を最大限獲得 2) 国際線：良好な需給環境が継続し、旅客数・単価ともに前年から向上	817億円 (+25%)	旅客数 +9% 単価 +14%

※NCAは前年第2四半期から連結 ※[]内は2Qのみの実績

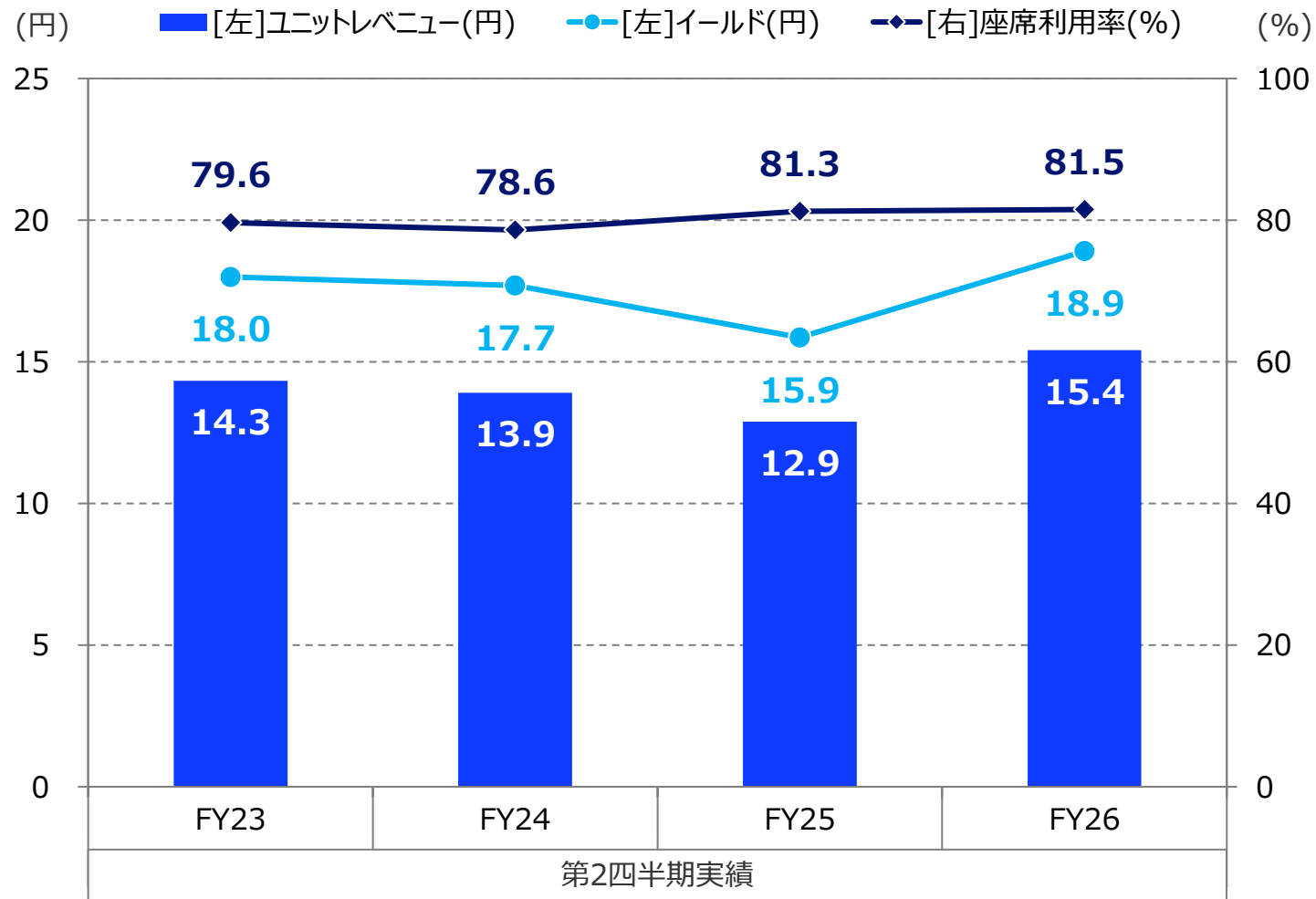
	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
座席キロ（百万）	30,550	31,514	+ 3.2	15,507	15,863	+ 2.3
旅客キロ（百万）	24,536	26,242	+ 7.0	12,602	12,930	+ 2.6
旅客数（千人）	4,298	4,672	+ 8.7	2,230	2,309	+ 3.5
座席利用率（%）	80.3	83.3	+3.0pt*1	81.3	81.5	+0.2pt*1
旅客収入（億円）	4,061	4,920	+ 21.2	1,998	2,444	+ 22.3
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	13.3	15.6	+ 17.5	12.9	15.4	+ 19.6
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	16.6	18.7	+ 13.3	15.9	18.9	+ 19.2
単価（円） （旅客収入／旅客数）	94,486	105,303	+ 11.4	89,606	105,855	+ 18.1

*1 座席利用率のみ前年差

上期 収入増減要因（前年差）



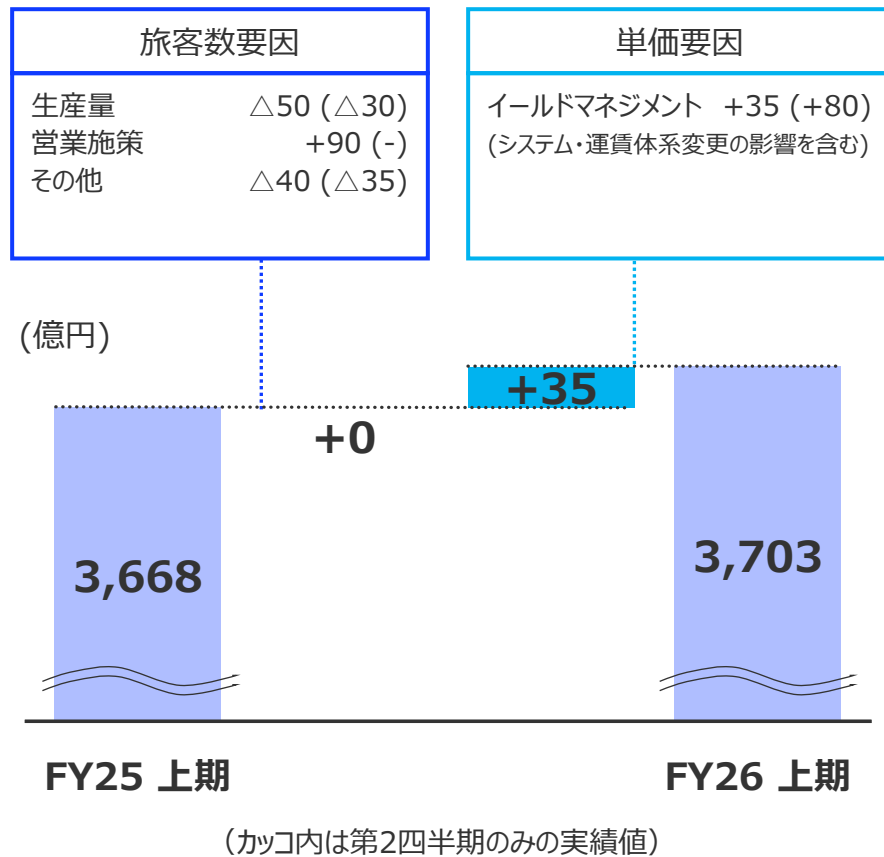
第2四半期（7～9月）実績推移



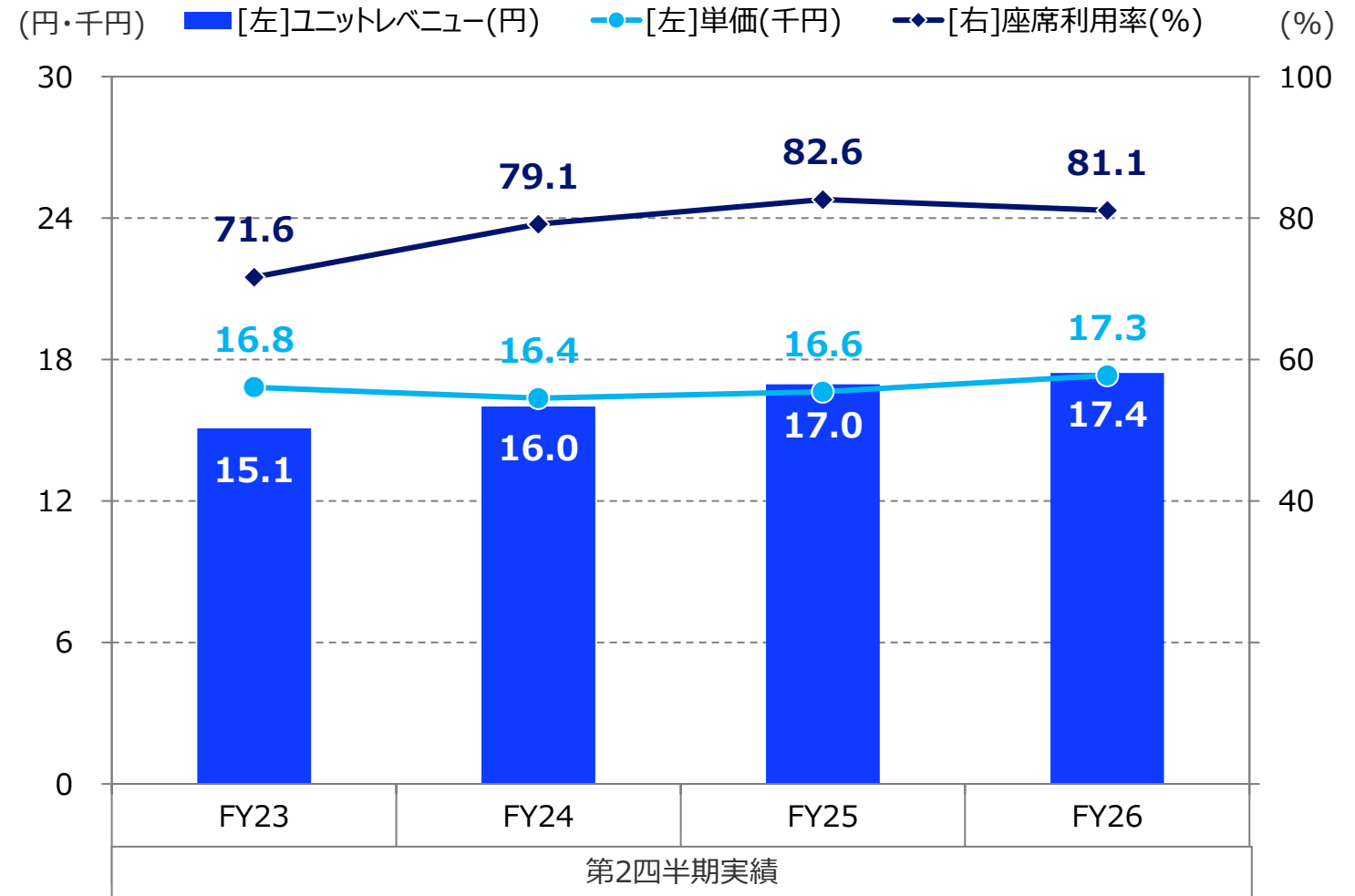
	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
座席キロ（百万）	23,446	23,092	△ 1.5	12,087	11,863	△ 1.9
旅客キロ（百万）	18,119	18,113	△ 0.0	9,985	9,619	△ 3.7
旅客数（千人）	22,566	22,574	+ 0.0	12,323	11,932	△ 3.2
座席利用率（%）	77.3	78.4	+1.2pt*1	82.6	81.1	△1.5pt*1
旅客収入（億円）	3,668	3,703	+ 1.0	2,049	2,067	+ 0.9
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	15.6	16.0	+ 2.5	17.0	17.4	+ 2.8
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	20.2	20.4	+ 1.0	20.5	21.5	+ 4.7
単価（円） （旅客収入／旅客数）	16,255	16,407	+ 0.9	16,629	17,323	+ 4.2

*1 座席利用率のみ前年差

上期 収入増減要因（前年差）



第2四半期（7～9月）実績推移



	上期*1			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	4,310	5,435	+ 26.1	2,701	2,733	+ 1.2
有償貨物トンキロ（百万）	2,522	3,241	+ 28.5	1,609	1,633	+ 1.5
貨物輸送重量（千トン）	470	587	+ 24.9	293	296	+ 1.1
貨物重量利用率（%）	58.5	59.6	+1.1pt*2	59.6	59.8	+0.2pt*2
貨物収入（億円）	1,219	2,175	+ 78.4	796	1,087	+ 36.5
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	28.3	40.0	+ 41.5	29.5	39.8	+ 34.9
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	48.3	67.1	+ 38.8	49.5	66.5	+ 34.5
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	259	370	+ 42.8	272	367	+ 35.0

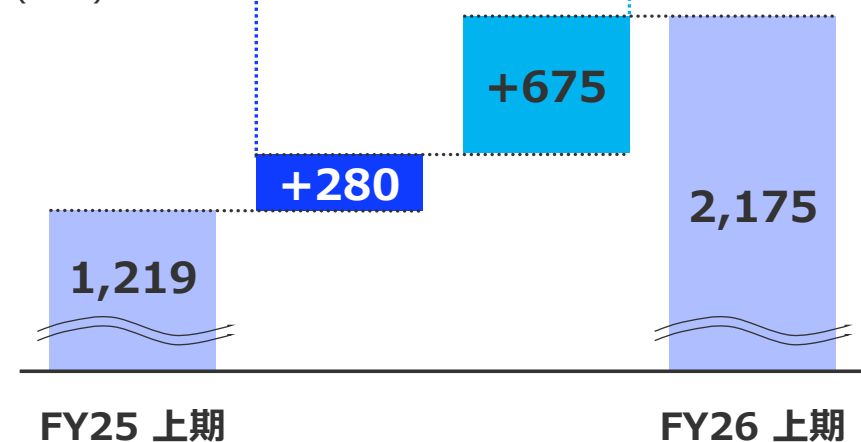
*1 NCAは前年度第2四半期から連結化(前年度第1四半期はANA実績のみ)

*2 貨物重量利用率のみ前年差

上期 収入増減要因（前年差）

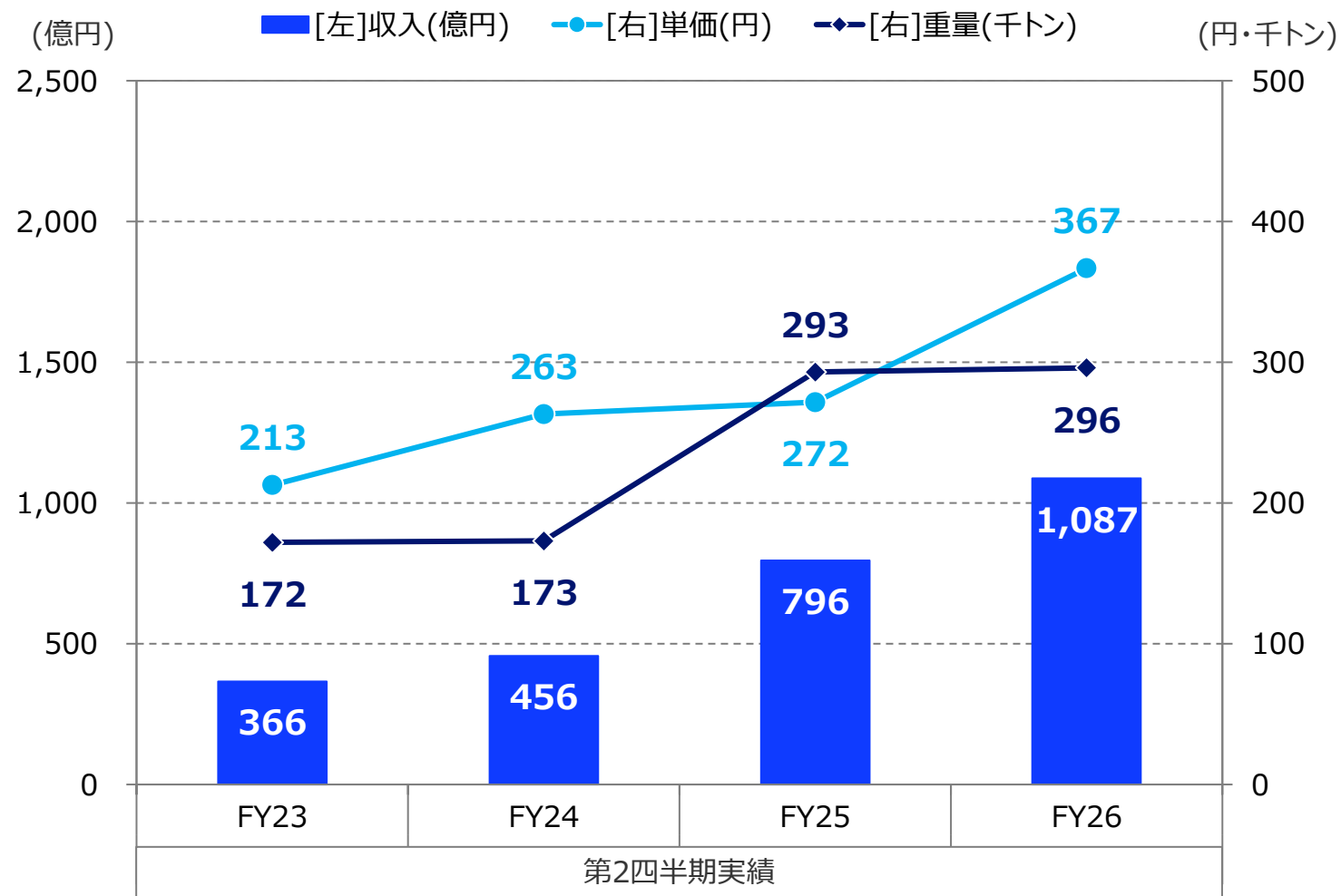
重量要因		単価要因	
生産量	+15 (+10)	販売レート・FSC	+295 (+190)
NCA連結化 (前年2Q~)	+265 (-)	為替	+140 (+90)
		NCA連結化 (前年2Q~)	+240 (-)

(億円)



(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

第2四半期（7～9月）実績推移



* NCAは2025年度第2四半期から連結化（2024年度第2四半期までANA実績のみ）

	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	3,270	3,258	△ 0.4	1,662	1,633	△ 1.7
有償貨物トンキロ（百万）	1,863	1,837	△ 1.4	951	924	△ 2.8
貨物輸送重量（千トン）	363	360	△ 0.8	186	181	△ 2.7
貨物重量利用率（%）	57.0	56.4	△0.6pt*1	57.2	56.6	△0.6pt*1
貨物収入（億円）	869	1,168	+ 34.4	446	584	+ 31.0
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	26.6	35.8	+ 34.9	26.8	35.8	+ 33.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	46.6	63.6	+ 36.3	46.9	63.3	+ 34.8
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	239	324	+ 35.4	240	323	+ 34.6

*1 貨物重量利用率のみ前年差

	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
本表のデータは、P.27記載実績の内数						
有効貨物トンキロ（百万）	854	808	△ 5.4	447	409	△ 8.6
有償貨物トンキロ（百万）	569	539	△ 5.2	297	272	△ 8.5
貨物輸送重量（千トン）	135	134	△ 1.1	70	67	△ 4.5
貨物重量利用率（%）	66.6	66.7	+0.1pt*1	66.4	66.5	+0.1pt*1
貨物収入（億円）	318	409	+ 28.7	165	208	+ 25.7
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	37.3	50.7	+ 36.0	37.0	50.9	+ 37.5
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	56.0	76.0	+ 35.8	55.7	76.6	+ 37.4
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	234	305	+ 30.2	234	308	+ 31.7

*1 貨物重量利用率のみ前年差

	上期*1			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
* 自社事業のみ						
有効貨物トンキロ（百万）	1,039	2,176	+ 109.4	1,039	1,099	+ 5.8
有償貨物トンキロ（百万）	658	1,403	+ 113.1	658	709	+ 7.7
貨物輸送重量（千トン）	107	227	+ 112.0	107	115	+ 7.7
貨物重量利用率（%）	63.4	64.5	+1.1pt*2	63.4	64.5	+1.1pt*2
貨物収入（億円）	350	1,007	+ 187.7	350	502	+ 43.6
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	33.7	46.3	+ 37.4	33.7	45.7	+ 35.7
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	53.1	71.7	+ 35.0	53.1	70.8	+ 33.3
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	327	443	+ 35.7	327	436	+ 33.4

*1 前年度第2四半期から連結化

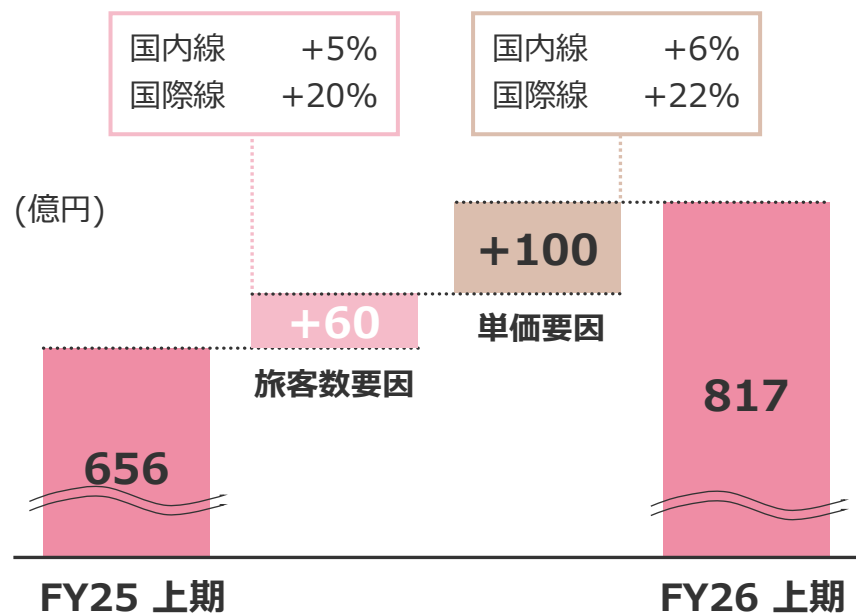
*2 貨物重量利用率のみ前年差

	上期			第2四半期		
	FY2025	FY2026	前年比(%)	FY2025	FY2026	前年比(%)
座席キロ（百万）	6,666	7,076	+ 6.2	3,375	3,570	+ 5.8
旅客キロ（百万）	5,492	5,991	+ 9.1	2,852	3,070	+ 7.6
旅客数（千人）	4,625	5,062	+ 9.4	2,411	2,643	+ 9.6
座席利用率（%）	82.4	84.7	+2.3pt*1	84.5	86.0	+1.5pt*1
売上高（億円）*2	656	817	+ 24.6	363	460	+ 26.6
ユニットレベニュー（円） （売上高／座席キロ）	9.8	11.6	+ 17.3	10.8	12.9	+ 19.7
イールド（円） （売上高／旅客キロ）	11.9	13.6	+ 14.2	12.7	15.0	+ 17.6
単価（円） （売上高／旅客数）	14,190	16,150	+ 13.8	15,071	17,410	+ 15.5

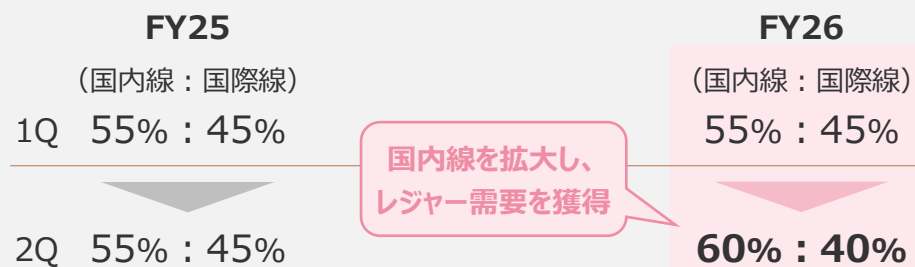
*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

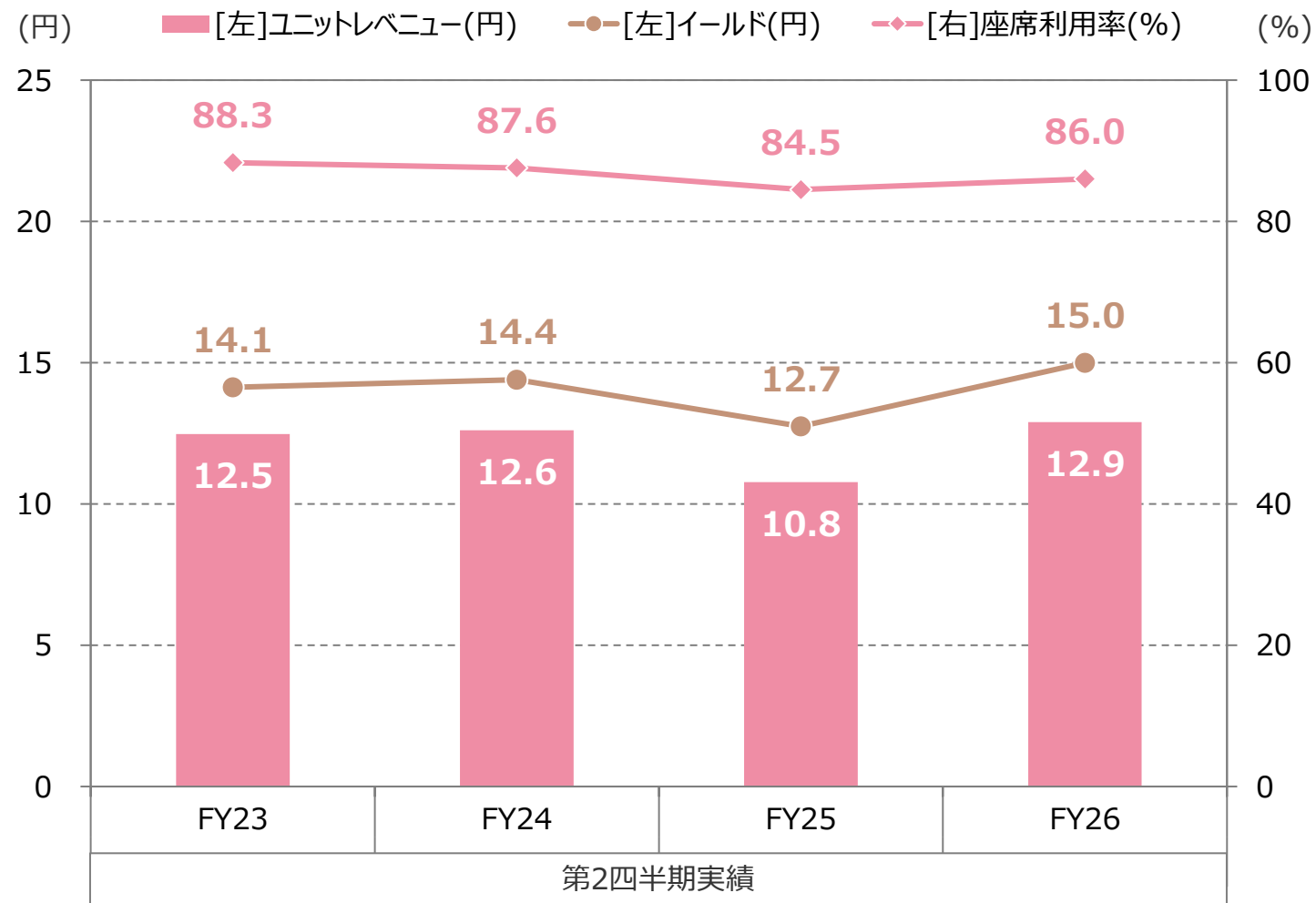
上期 収入増減要因（前年差）



座席キロ 内訳構成比



第2四半期（7～9月）実績推移



		FY2026 上期	前年 同期差	FY2026 2Q	前年 同期差
旅客収入 (構成比)	北米	36.8	△ 1.2	36.0	△ 0.2
	欧州	20.0	△ 0.6	19.9	△ 1.2
	中国	7.5	+ 0.5	8.1	+ 0.4
	アジア・オセアニア	29.4	+ 1.4	28.7	+ 1.3
	ハワイ	6.3	△ 0.1	7.3	△ 0.3
座席キロ (構成比)	北米	33.3	△ 0.1	33.8	+ 0.6
	欧州	16.3	△ 0.3	16.3	△ 0.2
	中国	5.6	△ 0.7	5.6	△ 0.6
	アジア・オセアニア	37.0	+ 1.7	36.5	+ 1.4
	ハワイ	7.9	△ 0.6	7.9	△ 1.3
旅客キロ (構成比)	北米	34.3	△ 0.8	34.6	+ 0.4
	欧州	16.7	△ 0.4	17.1	+ 0.1
	中国	5.7	△ 0.0	6.0	△ 0.1
	アジア・オセアニア	35.3	+ 1.3	33.8	+ 0.0
	ハワイ	8.0	△ 0.1	8.5	△ 0.3

		FY2026 上期	前年 同期差	FY2026 2Q	前年 同期差
旅客数 (構成比)	北米	20.5	△ 0.8	20.7	+ 0.2
	欧州	10.0	△ 0.4	10.2	△ 0.0
	中国	16.3	△ 0.2	17.1	△ 0.6
	アジア・オセアニア	45.9	+ 1.5	44.3	+ 0.8
	ハワイ	7.3	△ 0.2	7.8	△ 0.4
座席 利用率* (%)	北米	85.8	+ 1.4	83.5	△ 0.5
	欧州	85.3	+ 2.7	85.5	+ 1.5
	中国	85.6	+ 11.8	87.8	+ 6.5
	アジア・オセアニア	79.5	+ 2.2	75.5	△ 2.8
	ハワイ	84.7	+ 7.6	88.2	+ 10.0

* 座席利用率のみ実数、前年差はpt

		FY2026 上期	前年 同期差*1	FY2026 2Q	前年 同期差*1
貨物収入 (構成比)	北米（ハワイを含む）	53.2	+ 0.9	53.4	△ 0.8
	欧州	10.9	+ 0.6	10.2	△ 0.4
	中国	18.4	+ 0.5	18.2	+ 0.3
	アジア・オセアニア	16.6	△ 1.8	17.1	+ 0.9
	その他	1.0	△ 0.3	1.1	△ 0.0
有効貨物 トンキロ (構成比)	北米（ハワイを含む）	52.7	+ 2.0	52.8	+ 0.1
	欧州	12.4	+ 1.2	12.2	+ 0.6
	中国	13.9	△ 0.1	13.9	△ 0.6
	アジア・オセアニア	20.7	△ 3.1	20.8	△ 0.1
	その他	0.3	△ 0.1	0.3	△ 0.0
有償貨物 トンキロ (構成比)	北米（ハワイを含む）	51.5	+ 0.3	51.4	△ 1.6
	欧州	14.8	+ 1.2	14.6	+ 0.4
	中国	13.5	+ 0.3	13.4	△ 0.3
	アジア・オセアニア	19.8	△ 1.7	20.2	+ 1.4
	その他	0.4	△ 0.1	0.5	+ 0.0

		FY2026 上期	前年 同期差*1	FY2026 2Q	前年 同期差*1
貨物重量 (構成比)	北米（ハワイを含む）	29.8	+ 0.9	29.7	△ 0.8
	欧州	7.8	+ 0.6	7.7	+ 0.3
	中国	33.2	+ 1.4	32.9	△ 0.6
	アジア・オセアニア	25.5	△ 1.6	26.0	+ 1.5
	その他	3.7	△ 1.2	3.7	△ 0.3
貨物重量 利用率*2 (%)	北米（ハワイを含む）	58.3	△ 0.9	58.3	△ 1.7
	欧州	71.1	△ 0.0	71.6	△ 1.0
	中国	57.7	+ 2.5	57.4	+ 1.4
	アジア・オセアニア	57.1	+ 4.3	57.9	+ 4.4
	その他	85.5	+ 0.3	81.8	+ 6.6

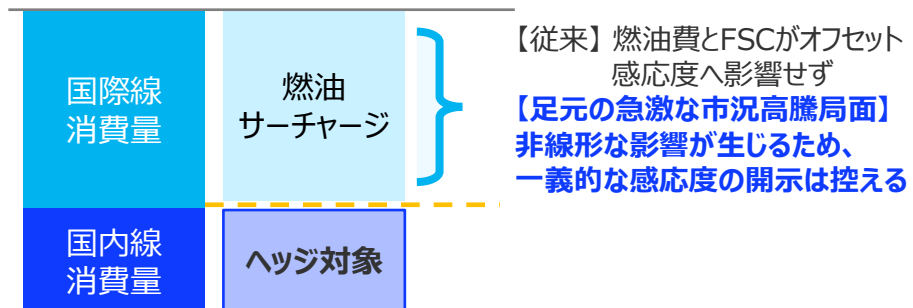
*1 NCAは前年度第2四半期から連結化(前年度第1四半期はANA実績のみ)

*2 貨物重量利用率のみ実数、前年差はpt

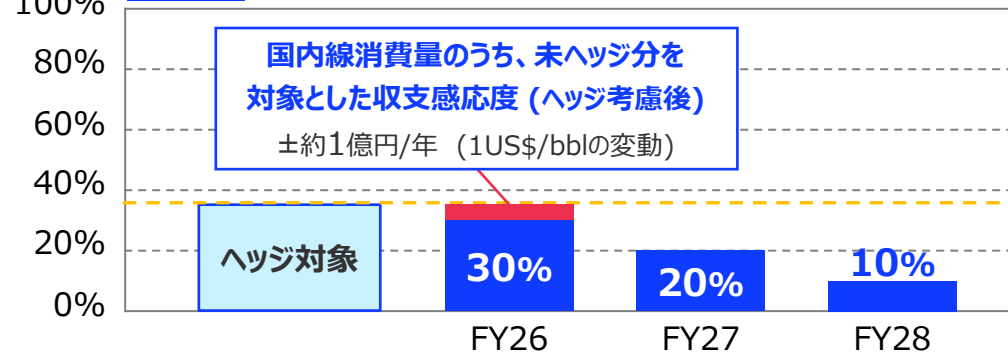
1. 燃油ヘッジ

■ 基本ヘッジ方針

- 1) 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 2) 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージで対応）



総消費量に対するヘッジ率（2026年9月末現在）

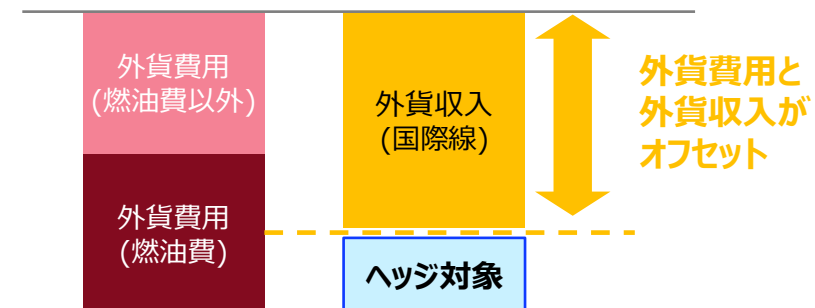


燃油市況 (USD/bbl)	FY25 上期実績	FY26 上期実績	FY26 下期前提
ドバイ原油	69.0	97.1	90
シンガポールケロシン	83.4	160.0	150

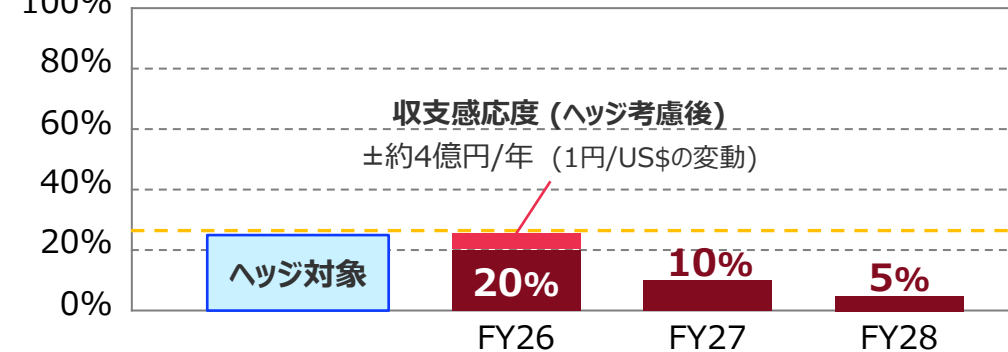
2. 為替ヘッジ

■ 基本ヘッジ方針

- 1) 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）



全外貨費用に対するヘッジ率（2026年9月末現在）



為替市況 (円/USD)	FY25 上期実績	FY26 上期実績	FY26 下期前提
ドル円レート	146.0	160.0	160

	座席数	FY2025 期末	FY2026 上期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Airbus A380-800	520	3	3	-	3	-
Boeing 777-300/-300ER	212・514	16	16	-	7	9
Boeing 777-200/-200ER	392・405	10	10	-	10	-
Boeing 777-F	-	2	2	-	2	-
Boeing 787-10	294・429	10	11	+ 1	10	1
Boeing 787-9	215~395	44	45	+ 1	39	6
Boeing 787-8	184~335	36	36	-	34	2
Boeing 767-300ER	202・270	15	15	-	15	-
Boeing 767-300F/-300BCF	-	6	6	-	4	2
Airbus A321-200neo	194	22	22	-	-	22
Airbus A321-200	194	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	146	11	11	-	11	-
Boeing 737-800	166	39	39	-	26	13
De Havilland Canada DASH 8-400	74	25	26	+ 1	26	-
ANA 計	-	243	246	+ 3	187	59
Boeing 747-8F	-	8	8	-	8	-
Boeing 747-400F*	-	7	7	-	7	-
NCA 計	-	15	15	-	15	-
Airbus A321-200neoLR	218	3	3	-	-	3
Airbus A320-200neo	188	22	24	+ 2	5	19
Airbus A320-200	180	13	13	-	-	13
Peach Aviation 計	-	38	40	+ 2	5	35
グループ 計	-	296	301	+ 5	207	94

(億円)		上期			第2四半期		
		FY2025	FY2026	前年差	FY2025	FY2026	前年差
航空関連 事業	売上高	1,738	1,898	+ 159	876	972	+ 96
	営業利益	39	104	+ 65	7	55	+ 47
	営業利益率 (%)	2.3	5.5	+ 3.2pt	0.9	5.7	+ 4.8pt
旅行 事業	売上高	338	319	△ 18	184	180	△ 4
	営業利益	2	9	+ 6	4	7	+ 2
	営業利益率 (%)	0.9	2.9	+ 2.0pt	2.7	4.4	+ 1.7pt
商社 事業	売上高	729	753	+ 23	382	378	△ 3
	営業利益	35	29	△ 6	22	18	△ 4
	営業利益率 (%)	4.9	3.9	△ 1.1pt	5.9	4.9	△ 1.0pt
その他	売上高	229	251	+ 21	114	128	+ 13
	営業利益	13	14	+ 0	8	7	△ 0
	営業利益率 (%)	6.1	5.7	△ 0.4pt	7.4	5.9	△ 1.5pt

1. 2026年度 第2四半期決算・通期業績予想修正（概要）
2. 2026年度 第2四半期決算（詳細）
- 3. 2026年度 通期業績予想修正（詳細）**



(億円)	FY2025	FY2026			
		当初予想	修正予想	前年差	当初予想差
売上高	25,392	27,700	28,700	+ 3,307	+ 1,000
営業費用	23,217	26,200	27,200	+ 3,982	+ 1,000
営業利益	2,174	1,500	1,500	△ 674	-
営業利益率（%）	8.6	5.4	5.2	△ 3.3pt	△ 0.2pt
経常利益	2,196	1,370	1,390	△ 806	+ 20
親会社株主に帰属する当期純利益	1,690	960	990	△ 700	+ 30
EBITDA（営業利益＋減価償却費）	3,864	3,280	3,260	△ 604	△ 20

市況	FY2025 実績	FY2026当初前提			FY2026 上期実績	FY2026 下期前提
		1Q	2Q	下期		
ドバイ原油 (US\$/bbl)	67.1	130	100	75	97.1	90
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	85.4	200	120	90	160.0	150
為替レート (円/US\$)	150.3	155			160.0	160

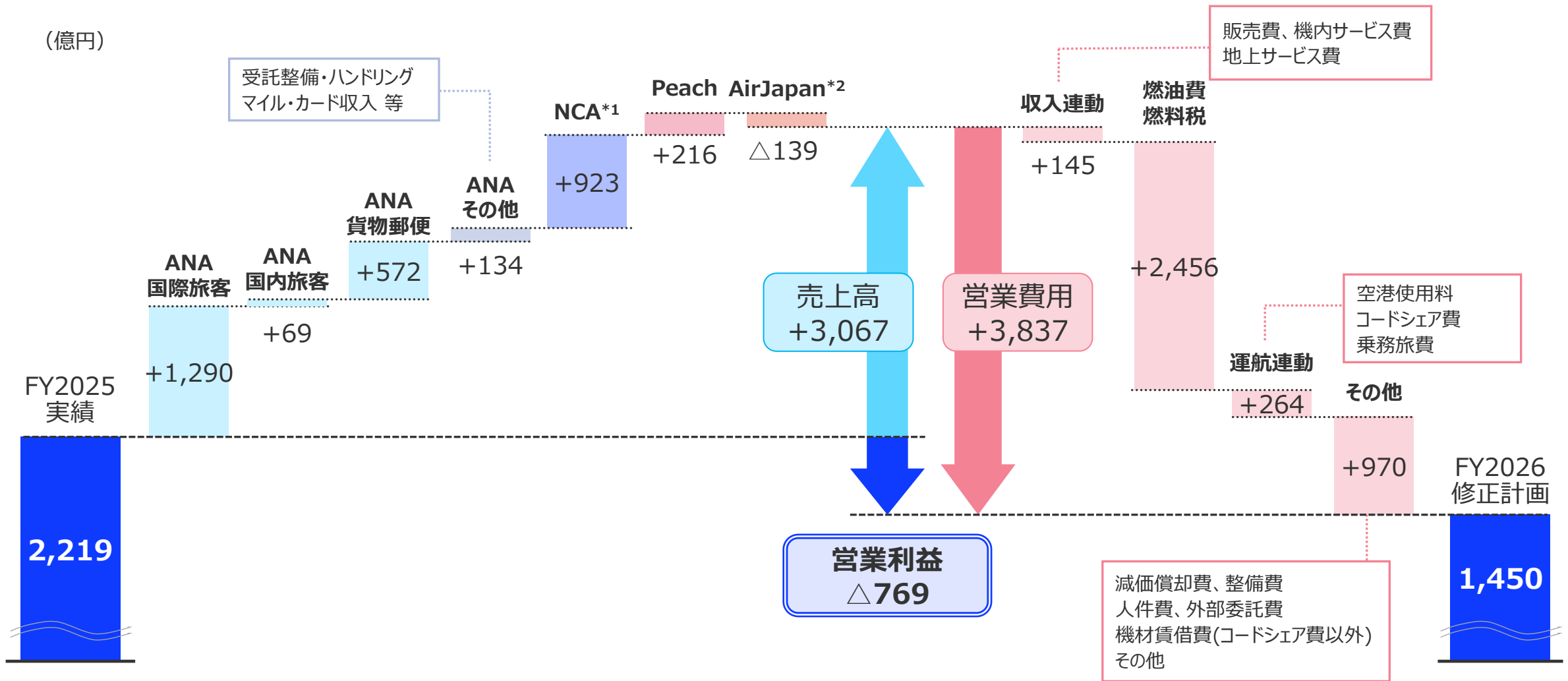
(億円)		FY2025	FY2026			
			当初予想	修正予想	前年差	当初予想差
売上高	航空事業	23,132	25,300	26,200	+ 3,067	+ 900
	航空関連事業	3,616	3,900	3,900	+ 283	-
	旅行事業	653	700	700	+ 46	-
	商社事業	1,542	1,600	1,600	+ 57	-
	その他	497	500	500	+ 2	-
	調整額	△ 4,049	△ 4,300	△ 4,200	△ 150	+ 100
	合計（連結）	25,392	27,700	28,700	+ 3,307	+ 1,000
営業利益	航空事業	2,219	1,500	1,450	△ 769	△ 50
	航空関連事業	14	80	120	+ 105	+ 40
	旅行事業	△ 1	0	10	+ 11	+ 10
	商社事業	75	60	60	△ 15	-
	その他	22	20	20	△ 2	-
	調整額	△ 156	△ 160	△ 160	△ 3	-
	合計（連結）	2,174	1,500	1,500	△ 674	-

(億円)		FY2025	FY2026			
			当初予想	修正予想	前年差	当初予想差
売上高	ANA 国際旅客	8,789	9,620	10,080	+ 1,290	+ 460
	ANA 国内旅客	7,380	7,520	7,450	+ 69	△ 70
	ANA 貨物郵便	2,137	2,430	2,710	+ 572	+ 280
	ANA その他	1,895	2,080	2,030	+ 134	△ 50
	NCA*1	1,356	2,055	2,280	+ 923	+ 225
	Peach	1,433	1,595	1,650	+ 216	+ 55
	AirJapan*2	139	-	-	△ 139	-
	合計	23,132	25,300	26,200	+ 3,067	+ 900
営業費用	燃油費・燃料税	4,723	6,420	7,180	+ 2,456	+ 760
	燃油費・燃料税 以外	16,189	17,380	17,570	+ 1,380	+ 190
	合計	20,912	23,800	24,750	+ 3,837	+ 950
営業利益	合計	2,219	1,500	1,450	△ 769	△ 50

*1 前年度第2四半期から連結化

*2 前年度末で運航休止

(億円)

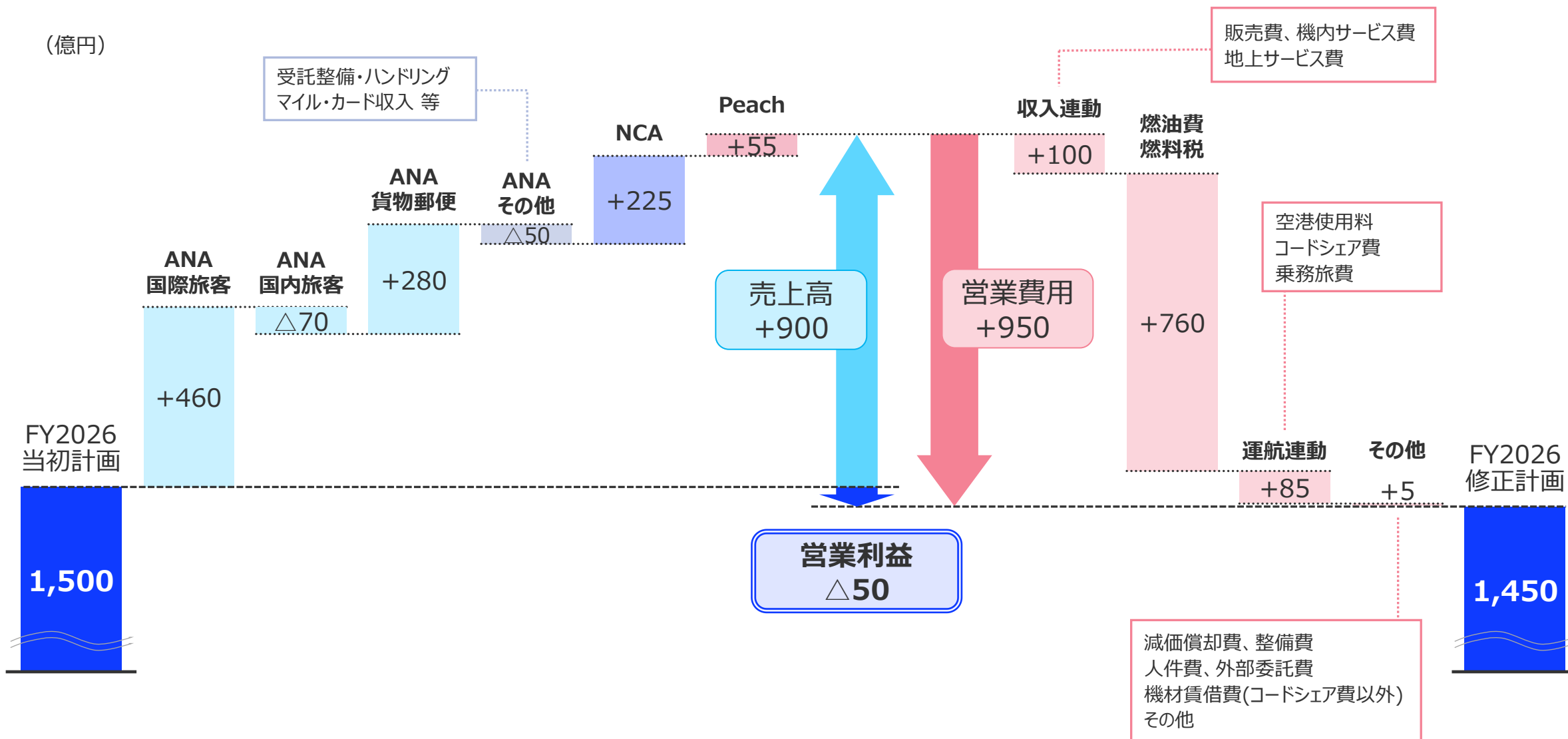


*1 NCAは前年度第2四半期から連結化

*2 AirJapanは前年度末で運航休止

※各費用項目に、NCAの連結化による増加分を含む

(億円)



	国際旅客			国内旅客		
	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)
* 括弧内は前年比（座席利用率のみ前年差）						
座席キロ（百万）	31,514 (+ 3.2)	32,084 (+ 2.6)	63,598 (+ 2.9)	23,092 (△ 1.5)	22,828 (△ 0.8)	45,921 (△ 1.2)
旅客キロ（百万）	26,242 (+ 7.0)	26,554 (△ 0.8)	52,797 (+ 2.9)	18,113 (△ 0.0)	18,225 (△ 2.3)	36,338 (△ 1.2)
旅客数（千人）	4,672 (+ 8.7)	4,731 (+ 0.1)	9,404 (+ 4.2)	22,574 (+ 0.0)	22,521 (△ 2.4)	45,095 (△ 1.2)
座席利用率（%）	83.3 (+ 3.0pt)	82.8 (△ 2.8pt)	83.0 (+ 0.0pt)	78.4 (+ 1.2pt)	79.8 (△ 1.2pt)	79.1 (△ 0.0pt)
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	15.6 (+ 17.5)	16.1 (+ 6.4)	15.9 (+ 11.5)	16.0 (+ 2.5)	16.4 (+ 1.8)	16.2 (+ 2.1)
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	18.7 (+ 13.3)	19.4 (+ 10.0)	19.1 (+ 11.5)	20.4 (+ 1.0)	20.5 (+ 3.3)	20.5 (+ 2.2)
単価（円） （旅客収入／旅客数）	105,303 (+ 11.4)	109,074 (+ 9.0)	107,200 (+ 10.0)	16,407 (+ 0.9)	16,630 (+ 3.4)	16,518 (+ 2.1)

- 前年3月は中東情勢悪化による特需あり
- 中国線の需給ひっ迫は下期に一巡

- 下期計画は、当初計画から大幅な変更はなし
- 下期にかけて単価改善を継続

	ANA+NCA* ¹		
	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)
* 括弧内は前年比（重量利用率のみ前年差）			
有効貨物トンキロ（百万）	5,435 (+ 26.1)	5,592 (+ 5.7)	11,028 (+ 14.8)
有償貨物トンキロ（百万）	3,241 (+ 28.5)	3,353 (+ 6.8)	6,594 (+ 16.5)
貨物輸送重量（千トン）	587 (+ 24.9)	596 (+ 4.9)	1,184 (+ 13.9)
貨物重量利用率（%）	59.6 (+ 1.1pt)	60.0 (+ 0.7pt)	59.8 (+ 0.9pt)
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	40.0 (+ 41.5)	39.9 (+ 23.3)	39.9 (+ 30.9)
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	67.1 (+ 38.8)	66.5 (+ 21.9)	66.8 (+ 29.0)
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	370 (+ 42.8)	373 (+ 24.2)	372 (+ 31.9)

■ NCAは前年度第2四半期から連結化
（前年度2Qから長距離路線の生産量が大幅拡大）

	ANA			NCA*1		
	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)
* 括弧内は前年比 (重量利用率のみ前年差)						
有効貨物トンキロ (百万)	3,258 (△ 0.4)	3,403 (+ 2.1)	6,662 (+ 0.9)	2,176 (+ 109.4)	2,189 (+ 11.8)	4,365 (+ 45.6)
有償貨物トンキロ (百万)	1,837 (△ 1.4)	1,971 (+ 5.0)	3,808 (+ 1.8)	1,403 (+ 113.1)	1,381 (+ 9.7)	2,785 (+ 45.2)
貨物輸送重量 (千トン)	360 (△ 0.8)	375 (+ 3.4)	736 (+ 1.3)	227 (+ 112.0)	221 (+ 7.6)	448 (+ 43.3)
貨物重量利用率 (%)	56.4 (△ 0.6pt)	57.9 (+ 1.6pt)	57.2 (+ 0.5pt)	64.5 (+ 1.1pt)	63.1 (△ 1.2pt)	63.8 (△ 0.2pt)
ユニットレベニュー (円) (貨物収入／有効貨物トンキロ)	35.8 (+ 34.9)	36.0 (+ 23.6)	35.9 (+ 28.9)	46.3 (+ 37.4)	45.8 (+ 21.3)	46.0 (+ 26.7)
イールド (円) (貨物収入／有償貨物トンキロ)	63.6 (+ 36.3)	62.2 (+ 20.2)	62.9 (+ 27.8)	71.7 (+ 35.0)	72.5 (+ 23.6)	72.1 (+ 27.0)
重量単価 (円/kg) (貨物収入／貨物輸送重量)	324 (+ 35.4)	327 (+ 22.1)	325 (+ 28.4)	443 (+ 35.7)	453 (+ 26.0)	448 (+ 28.7)

*1 前年は連結化後の第2四半期以降の実績

	Peach		
	上期(実績)	下期(修正計画)	通期(修正計画)
* 括弧内は前年比（座席利用率のみ前年差）			
座席キロ（百万）	7,076 (+ 6.2)	7,200 (+ 7.3)	14,277 (+ 6.7)
旅客キロ（百万）	5,991 (+ 9.1)	6,122 (+ 5.8)	12,114 (+ 7.4)
旅客数（千人）	5,062 (+ 9.4)	5,221 (+ 8.1)	10,283 (+ 8.7)
座席利用率（%）	84.7 (+ 2.3pt)	85.0 (△ 1.2pt)	84.9 (+ 0.5pt)
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	11.6 (+ 17.3)	11.6 (+ 0.0)	11.6 (+ 8.0)
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	13.6 (+ 14.2)	13.6 (+ 1.4)	13.6 (+ 7.3)
単価（円） （旅客収入／旅客数）	16,150 (+ 13.8)	15,966 (△ 0.7)	16,056 (+ 5.9)

- 前年の上期は、香港線で風評被害の影響あり
- 中国線の需給ひっ迫は下期に一巡

グループ経営理念	安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します
グループ安全理念	安全は経営の基盤であり社会への責務である 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します
グループ経営ビジョン	ワクワクで満たされる世界を 私たちは、空からはじまる多様なつながりを創り、 社員・お客様・社会の可能性を広げていきます。
グループ行動指針 (ANA's Way)	私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。 <ol style="list-style-type: none">1. 安全 (Safety) 安全こそ経営の基盤、守り続けます。2. お客様視点 (Customer Orientation) 常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。3. 社会への責任 (Social Responsibility) 誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。4. チームスピリット (Team Spirit) 多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。5. 努力と挑戦 (Endeavor) グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断および仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

A N Aホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp